

おとなも こどもも 気づきにくい からだの心配がわかる絵本

# はっきりみえて いるかな？

絵：せべまさゆき  
監修：高橋ひとみ  
編著：WILLこども知育研究所



# じゃくしてなおる？

じゃくしを なおすには、なるべく はやく  
しりよくが わるいことに きづいて、  
おいしゃさんに おじゃまむしを  
みつけてもらうことが たいせつ。

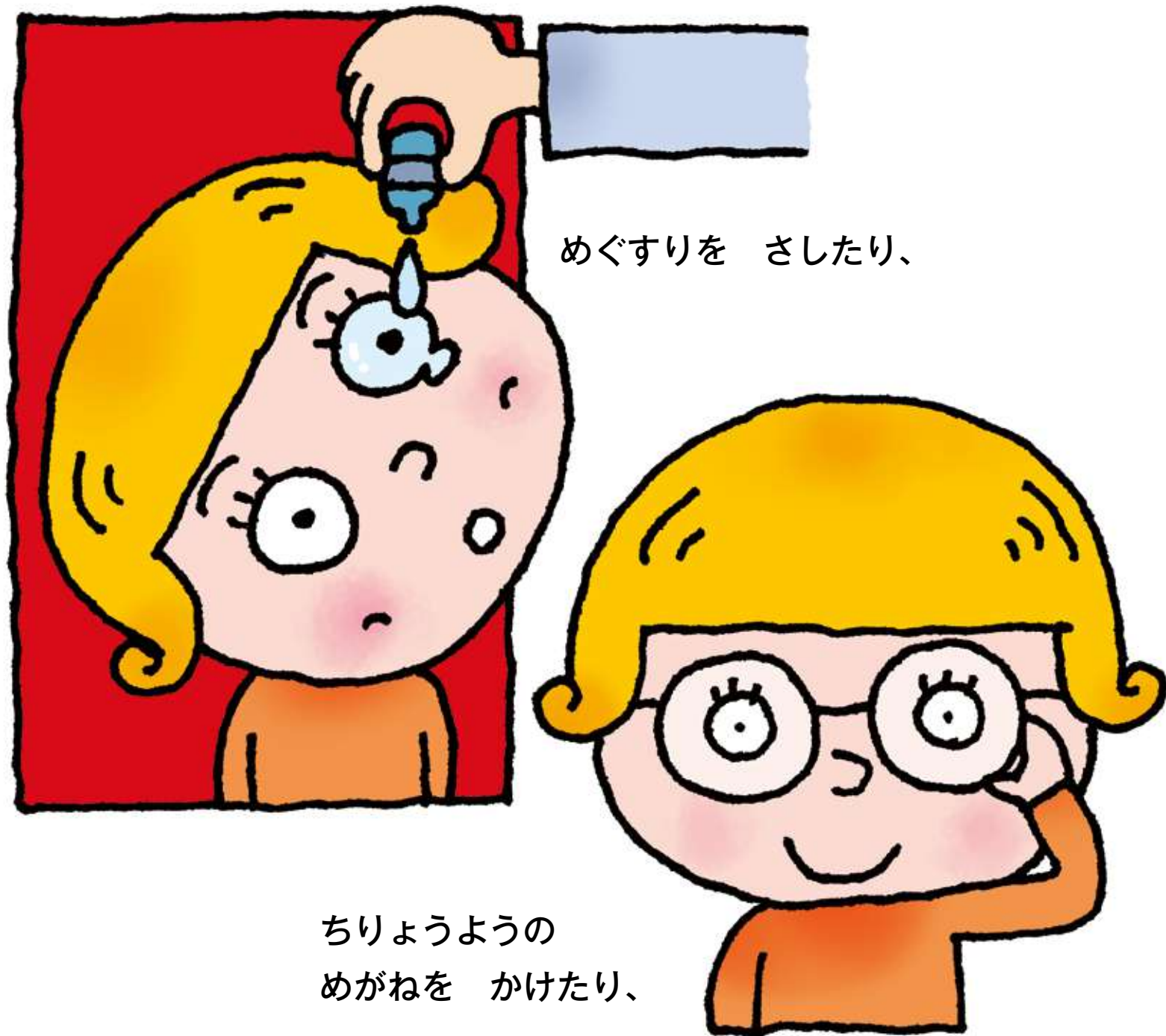


じゃくしの ちりょう、  
がんばろう！



しりよくが そだつのが  
おわってしまう 8さいころまでに  
ちりょうを おわらせたいからね。

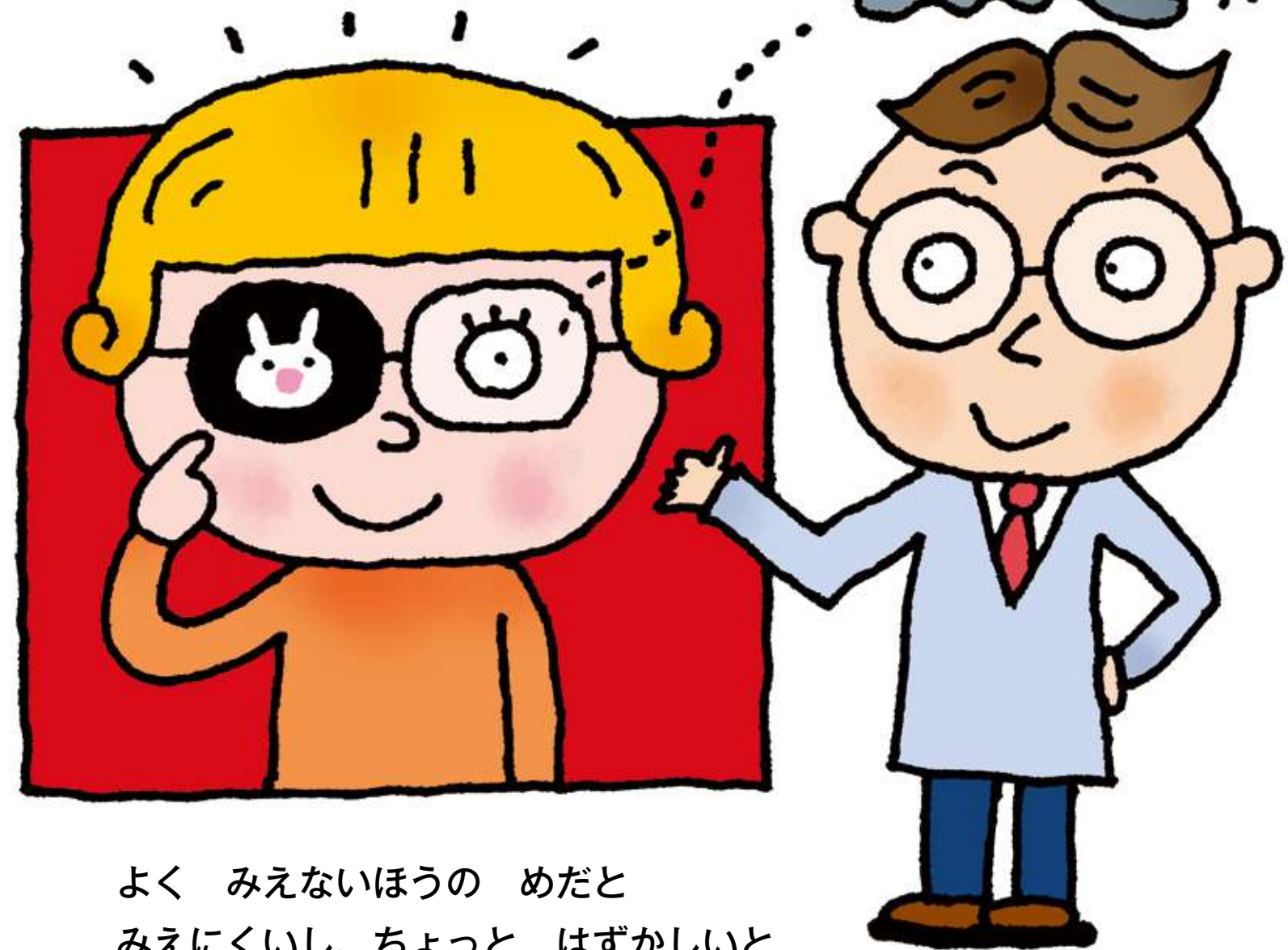
# じゃくしの ちりょう、 どうやるの？



めぐすりを さしたり、

ちりょうようの  
めがねを かけたり、

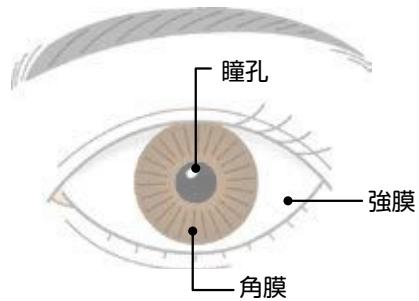
アイパッチと いて、  
よく みえる めだけ  
ふたを する ちりょうも あるよ。



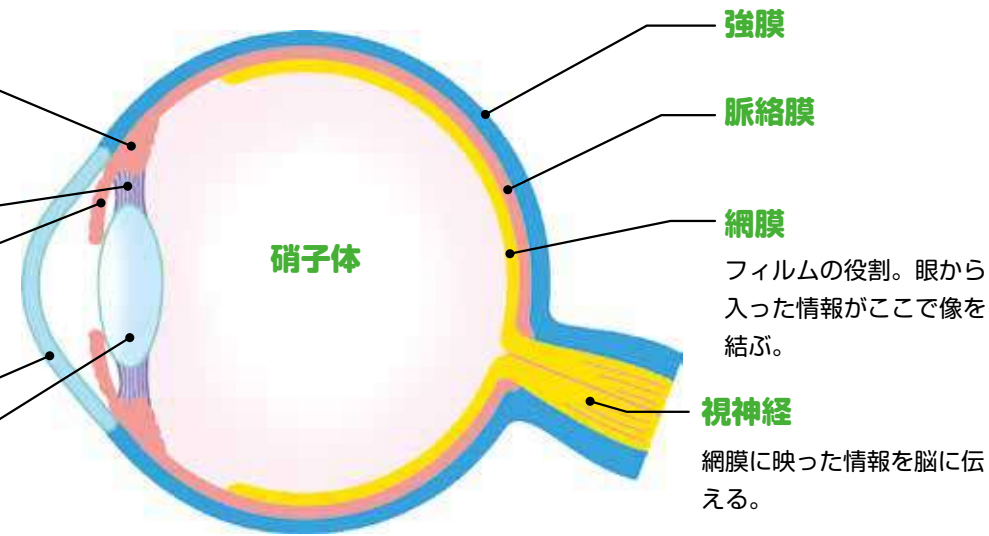
よく みえないほうの めだと  
みえにくいし、ちょっと はずかしいと  
おもうかも しれないけど、  
がんばって ちりょうを つづければ  
ちゃんと ものが みえるように なるんだよ。

ものが「見える」仕組みをおさらいしましょう

眼の構造は、カメラとよく似ています。カメラにはかたいガラスのレンズがついていますが、眼には角膜と水晶体という2枚のやわらかいレンズが付いています。カメラの絞りと同じように、眼に入ってくる光の量を調節するのが虹彩。水晶体の周囲にある毛様体という筋肉は、その働きで水晶体の厚みを変化させ、光の屈折の度合いを調節して、ものがはっきり見えるようピントを合わせます。つまり私たちの眼は、自動的にピントを調節するオートフォーカスカメラと同じ働きをしているのです。

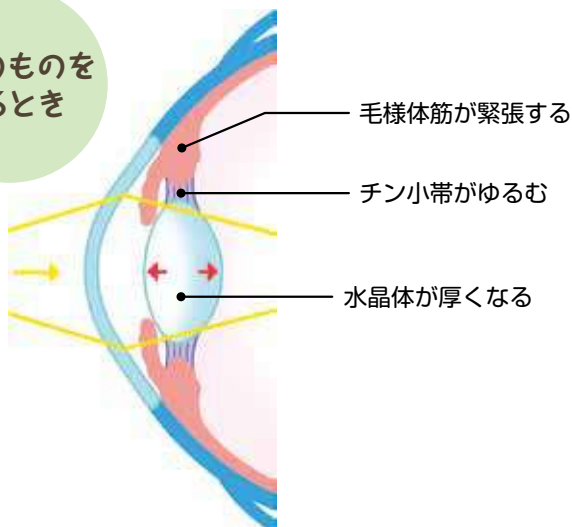


- 毛様体**  
オートフォーカスの役割。水晶体の厚さを変えてピントを調節する。
- チン小帯**
- 虹彩**  
絞りの役割。入ってくる光の量を調節する。
- 角膜**
- 水晶体**  
レンズの役割。

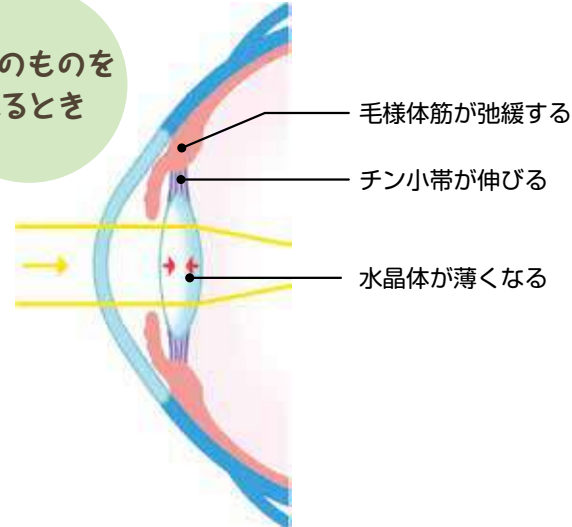


- 網膜**  
フィルムの役割。眼から入った情報がここで像を結ぶ。
- 視神経**  
網膜に映った情報を脳に伝える。

近くのものを見る時

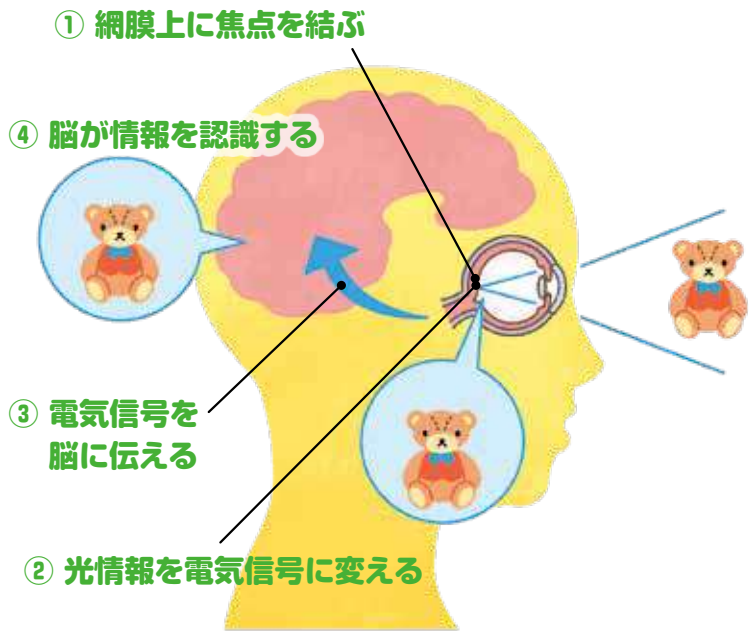


遠くのものを見る時

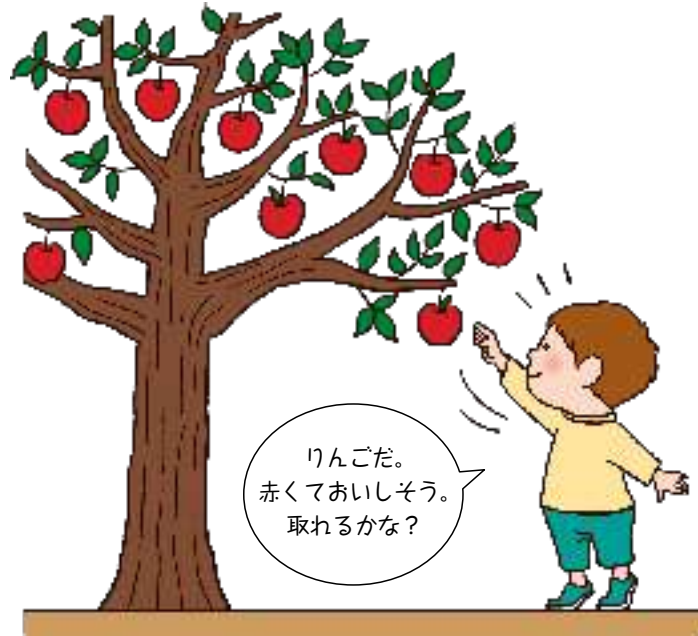


「眼がいい」「眼が悪い」ってどういうこと?

生まれたばかりの赤ちゃんはみな、眼がよく見えませんが、両眼を使って対象物を見たり、ピントを調節したりするなどを毎日繰り返すことによって、眼の機能を発達させていきます。次第に見たいものがはっきりと、そして細部まで見られるようになり、遠い近いの距離感が正確になり、やがて立体感が伴ってきます。視力について話すとき、私たちはよく「眼がいい」「眼が悪い」という表現を使いますが、よく見える、よく見えないというのは、実は「眼」だけの問題ではありません。眼はカメラで、そこに映ったものが何であるかを判断するのは脳だからです。



眼に映ったものを脳が認識したとき「見える」



私たちの眼に入った光の情報は網膜の上に像を結び、それが電気信号に変わって脳に伝わります。脳がその情報をキャッチして、たとえばそれがりんごで、何色で、自分からどれくらいの距離にあるかなどを認識するとき、私たちは「見える」と感じます。子どもたちは眼の機能を発達させながら、同時に眼で見たものに対する経験を重ねます。また、脳はそこから色、形、距離感、立体感などの情報を読み取る力を育てていきます。眼と脳と一緒に発達し、一緒に働くからこそ、ものを正確に見ることができるようになるのです。